

# 中高一貫校における英語教育に関する現状調査

## 《中高一貫校対象》

### 調査報告

#### 《調査実施概要》

1. 調査委託機関  
財団法人 日本英語検定協会
2. 調査実施機関  
財団法人 日本生涯学習総合研究所
3. 調査テーマ  
中高一貫校における英語教育に関する現状調査
4. 調査対象  
全国の中高一貫校
5. 調査期間  
平成21年7月～8月
6. 調査方法  
送付・回収ともに郵送によるアンケート調査
7. 送付数・回収結果

一貫形態別	発送数	回収数	回収率
中等教育学校	40	15	37.5%
併設型高等学校	235	66	28.1%
併設型中学校	233	73	31.3%
連携型高等学校	80	43	53.8%
連携型中学校	171	71	41.5%
種別不明		4	
合計	759	272	35.8%

## 凡 例

◎文中で「全体」「形態別」「設立種別」という語が示すものは以下の通りである。

全体：すべての回答の合計データ

形態別：中等教育学校、併設型、連携型の3形態別

設立種別：国立、公立、私立の3種別

◎単に「併設型」、「連携型」としか記されていない場合は、それぞれ「併設型高等学校と併設型中学校」、「連携型高等学校と連携型中学校」を指す。

◎集計は全体集計と形態別集計を主とし、必要と思われる部分については設立種別集計を加えた。

◎解説文中での煩雑さを避けるために、中等教育学校を併設型・連携型とともに解説する場合は、「前期課程」「後期課程」という語をそれぞれ「中学」「高校」という表現に置き換えて表記している。

◎表中では、スペースによって高等学校を高校、中学校を中学に略しているところもある。

◎記述回答のうち、中等教育学校の回答文に関しては、併設型・連携型に合わせて前期課程を「中1・2・3」、後期課程を「高1・2・3」に置き換えて表記を統一した。

### 問1 中学（前期）課程の入学予定者に対し、どのような調査の実施、あるいは書類提出を求めましたか（複数回答可）

回答対象：中等教育学校ならびに併設型・連携型の中学校

全体では「⑤特になし」が 37.7%であり、残りの⑤と無回答を除く、①～④、⑥と答えた学校が、中学入学時に生徒に対し何らかの調査の実施または書類提出を求めていることになる。

形態別でみると、中等教育学校・併設型中学と連携型中学とでは大きく回答傾向が異なる。すなわち、入学者に対し①～④、⑥に該当する何らかの調査実施や書類の提出を求めている学校が、中等教育学校で 93.3%、併設型中学で 87.7%と全体の 9 割前後に及ぶのに対して、連携型中学では 22.6%に過ぎない。「⑥その他」としては、学力試験の実施を上げる学校が 16 校にのぼるが、いずれも私立中学（中等教育学校 2 校、併設型 13 校、形態別無回答 1 校）である。

①～④の中では、全体集計では「②口頭試問または面接」が 41.5%で最も多く、形態別にみると中等教育学校で「①適性検査」73.3%、併設型中学で「②口頭試問または面接」58.9%、連携型中学で「②口頭試問または面接」19.7%が、それぞれ最多となっている。

全体集計	校数	n=159
①適性検査	53	33.3%
②口頭試問または面接	66	41.5%
③作文	39	24.5%
④調査書	58	36.5%
⑤特になし	60	37.7%
⑥その他	28	17.6%
無回答	5	3.1%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型中学校 (n=73)		連携型中学校 (n=71)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
①適性検査	11	73.3%	37	50.7%	5	7.0%
②口頭試問または面接	9	60.0%	43	58.9%	14	19.7%
③作文	6	40.0%	24	32.9%	9	12.7%
④調査書	8	53.3%	38	52.1%	12	16.9%
⑤特になし	1	6.7%	9	12.3%	50	70.4%
⑥その他	4	26.7%	19	26.0%	5	7.0%
無回答	0	0%	0	0%	5	7.0%

問2 連携校あるいは併設校からの高校進級者に対し、どのような調査、あるいは書類審査を実施しましたか（複数回答可）

回答対象：併設型と連携型の高等学校

全体では、連携校・併設校からの進級者に対する調査や書類審査の実施は「⑤特になし」と答えた学校が37.6%となる。それ以外の、42.3%にあたる学校（「⑥その他」および「無回答」を除く）では、内部進学者が高校に進級する際、①～④までの何らかの調査または書類審査を行っている。

しかし形態別にみると、併設型高校と連携型高校では大きな違いが見られる。すなわち、併設型高校では、併設中学からの進級者に対し書類提出や調査などを「行っていない」学校が62.1%、これに対し連携型高校では0%。すべての連携型高校において、連携中学からの進級生に対し調査や書類審査を行っていることになる。連携型高校では連携する中学からの進級者に対する学力把握が十分でないために調査や書類審査を行わざるをえないということが予想される。また、併設型高校で16.7%、連携型高校で11.6%の学校が、高校進級の際に内部進級者を対象に学力試験を実施している。

全体集計	校数	n=109
①口頭試問または面接	45	41.3%
②調査書	31	28.4%
③学力試験	16	14.7%
④作文・小論文・レポートなど	28	25.7%
⑤特になし	41	37.6%
⑥その他	20	18.3%
無回答	2	1.8%

形態別集計	併設型高等学校(n=66)		連携型高等学校(n=43)	
	件数	割合	件数	割合
①口頭試問または面接	8	12.1%	37	86.0%
②調査書	9	13.6%	22	51.2%
③学力試験	11	16.7%	5	11.6%
④作文・小論文・レポートなど	0	0.0%	28	65.1%
⑤特になし	41	62.1%	0	0.0%
⑥その他	11	16.7%	9	20.9%

問2-2 試験の実施科目を教えてください（複数回答可）

回答対象：併設型と連携型の高等学校で、問2で「③学力試験」を選んだ学校

学力試験の実施科目については「英・数・国・理・社」の5教科型と「英・数・国」の3教科型に大別されるが、両者の割合はほぼ拮抗しており、併設型高校・連携型高校による大きな差もみられなかった。

全体集計	校数	n=16
①英語	16	100.0%
②数学	16	100.0%
③国語	16	100.0%
④理科	9	56.3%
⑤社会	9	56.3%
⑥その他	0	0.0%

形態別集計	併設型 高等学校	連携型 高等学校	形態不明
英・数・国	5	2	1
英・数・国・理・社	6	3	0

### 問3 併設または連携されている中学から貴校へ進学する者の割合はおよそどの程度ですか

回答対象：併設型と連携型的高等学校

全体の半数近い44.0%の高校で95%以上の中3生が併設または連携先の高校に進級している。その一方で、併設または連携先の高校への進級が半分以下という学校も20.2%あった。形態別にみると、併設型では内部進学率95%以上が全体の68.2%を占めるのに対し、連携型では内部進学率が5割に満たない学校が最も多く39.5%であった。

設立種別にみると、内部進学率95%以上の高校は、公立高校19.0%、私立高校で72.5%となり、私立高校の内部進学率が圧倒的に高いことがわかるが、公立でも併設型高校に限ると、内部進学率95%以上が52.9%にのぼった。

全体集計	校数	n=109
①95%以上	48	44.0%
②95%未満～75%以上	16	14.7%
③75%未満～50%以上	19	17.4%
④50%未満	22	20.2%
無回答	4	3.7%

形態別集計	併設型高等学校 (n=66)		連携型高等学校 (n=43)	
①95%以上	45	68.2%	3	7.0%
②95%未満～75%以上	11	16.7%	5	11.6%
③75%未満～50%以上	2	3.0%	17	39.5%
④50%未満	5	7.6%	17	39.5%
無回答	3	4.5%	1	2.3%

設立種別	公立一貫高校 (n=58)		私立一貫高校 (n=51)		公立併設型高校 (n=17)		私立併設型高校 (n=49)	
①95%以上	11	19.0%	37	72.5%	9	52.9%	36	73.5%
②95%未満～75%以上	9	15.5%	7	13.7%	4	23.5%	7	14.3%
③75%未満～50%以上	19	32.8%	0	0.0%	2	11.8%	0	0.0%
④50%未満	17	29.3%	5	9.8%	1	5.9%	4	8.2%
無回答	2	3.4%	2	3.9%	1	5.9%	2	4.1%

問4 併設または連携する中学校を卒業して（中等教育学校の場合は前期課程を終えて）、他の高校へ進学する生徒の割合はおよそどの程度ですか 回答対象：中等教育学校と併設型・連携型の高等学校

全体では、47.6%と半数近くの学校が、「他高校への進学者は5%未満」と答えている。形態別には大きな違いが見られ、中等教育学校と併設型では「外部高校への進学者が5%未満」とする学校がいずれも半数以上なのに対し、連携型では7.0%に過ぎない。一方で「連携校以外への進学者が10%以上」と答えた連携型高校は81.4%にのぼり、内部進学者の多い中等教育学校と併設型に対し、外部の高校への進学者が少なくない連携型の2つに大別されることがわかる。

全体集計	校数	n=124
①10%以上	38	30.6%
②10%未満～5%以上	13	10.5%
③5%未満	59	47.6%
無回答	14	11.3%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)		連携型高等学校 (n=43)	
	①10%以上	0	0.0%	3	4.5%	35
②10%未満～5%以上	1	6.7%	9	13.6%	3	7.0%
③5%未満	8	53.3%	48	72.7%	3	7.0%
無回答	6	40.0%	6	9.1%	2	4.7%

問5 貴校では中学（前期）課程・高校（後期）課程とで職員室は別れていますか 回答対象：中等教育学校と併設型高等学校

職員室の中高一体化は全体の60.5%の学校で行われているが、形態別では併設型高校では、まだ39.4%の学校で職員室が中高分離の状態にある。設立種別にみた場合では、公立70.4%、私立57.9%と公立の方が職員室の一体化が進んでいる。形態別と設立種別を合わせてみると、一体化が最も進んでいるのは、私立の中等教育学校で80.0%である。

全体集計	校数	n=86
①別れている	27	33.3%
②一体化している	49	60.5%
③科目による	0	0.0%
無回答	5	6.2%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)	
	①別れている	1	6.7%	26
②一体化している	10	66.7%	39	59.1%
③科目による	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	26.7%	1	1.5%

設立種別集計	公立		私立	
	公立中等教育学校	公立併設型高等学校	私立中等教育学校	私立併設型高等学校
②一体化している	60.0%	76.5%	80.0%	53.1%
	70.4%		57.9%	

問6 貴校の「学校の特徴」で謳われている中に、以下の各項に該当するものがありますか

(複数回答可)

回答対象：中等教育学校と併設型・連携型の高等学校

全体では、①～④のいずれかを学校の特徴としてあげている学校が 82.3%にのぼり、形態別では、中等教育学校と併設型高校で90%以上、連携型高校では60%以上となる。

回答項目ごとに見ると、「①英語教育の充実」と「②国際理解・国際交流を重視」は中等教育学校と併設型高校で高く、半数を超える学校が特徴としてあげている。特に「①英語教育の充実」は中等教育学校で73.3%、併設型高校では65.2%と比率が高い。「③コミュニケーション力、言語能力の育成」は、連携型高校で他の項目を上回る32.6%の学校で特徴としてあげている。

なお、「④上記以外の英語あるいは語学に関する特色」には「基礎力養成（公立・連携高校）」「難関大学進学のための学力をつける（公立・併設高校）」といった学力面での特色や、「韓国語・中国語の学習（公立・中等学校）」などが記載されている。

全体集計	校数	n=124
①英語教育の充実	62	50.0%
②国際理解・国際交流を重視	57	46.0%
③コミュニケーション力、言語能力の育成	53	42.7%
④上記以外の英語あるいは語学に関する特色	10	8.1%
無回答	22	17.7%

形態別集計-1	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)		連携型高等学校 (n=43)		形態不明
①英語教育の充実	11	73.3%	43	65.2%	9	20.9%	4
②国際理解・国際交流を重視	11	73.3%	34	51.5%	12	27.9%	3
③コミュニケーション力、言語能力の育成	7	46.7%	32	48.5%	14	32.6%	4
④上記以外の英語あるいは語学に関する特色	2	13.3%	5	7.6%	3	7.0%	0

形態種別集計-2	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)		連携型高等学校 (n=43)	
①～④のいずれかを学校の特徴にあげた学校	14	93.3%	61	92.4%	27	62.8%

問7 貴校で、英語教育において最も力を入れている点を一つお選びください

回答対象：すべての学校

全体では「①会話を中心とする実用的な英語コミュニケーション能力」が最も多い。「②大学受験に必要な英語力」に力を入れる率は中学よりも高校で高まる。また連携型よりも併設型で大学受験を目標にするところが多い。特に中学校段階で「大学受験に必要な英語力」と答えた中学校が、連携型2.8%に対し、併設型では37.0%で大差が見られる。なお、公立と私立との間に顕著な差は認められなかった。

「③その他」では「基礎・基本の定着」に代表される英語の基礎学力の充実に力を入れている学校が28校と多数を占めた。また「4技能のバランスのとれた英語力の育成」も10校があげている。また「①会話を中心とする実用的な英語コミュニケーション能力」と「②大学受験に必要な英語力」とは対立・矛盾せず双方は両立できると指摘する学校が5校あった。

全体集計	校数	n=272
①会話を中心とする実用的な英語コミュニケーション能力	106	39.0%
②大学受験に必要な英語力	92	33.8%
③その他	71	26.1%
無回答	3	1.1%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)		連携型高等学校 (n=43)		併設型中学校 (n=73)		連携型中学校 (n=71)		形態不明
①会話を中心とする実用的な英語コミュニケーション能力	4	26.7%	13	19.7%	13	30.2%	33	45.2%	41	57.7%	2
②大学受験に必要な英語力	6	40.0%	45	68.2%	10	23.3%	27	37.0%	2	2.8%	2
③その他	4	26.7%	8	12.1%	20	46.5%	12	16.4%	27	38.0%	0
無回答	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	1.4%	0

問8 英語の授業において、習熟度別のクラス編成を行っていますか

回答対象：すべての学校

全体では、「①行っている学校」45.6%と「②行っていない学校」44.1%は、ほぼ拮抗している。形態別にみると、習熟度別クラス編成の実施率は、中等教育学校と併設型で高く、いずれも50%以上であり、特に併設型高等学校では68.2%にのぼる。一方の連携型では高等学校で58.1%となるが、中学校では5.6%に過ぎない。

設立種別の実施率では、公立校28.9%に対し、私立は69.9%となり、私立が公立を大きく上回る。併設型高等学校の実施率が高く、連携型中学校で低いのは、それぞれの形態の中での私立校の多寡にもよる。

「③その他」の意見としては、「学年、またはコースによって実施」と答えた学校が10校、「少人数制クラスの実施」が5校あった。

全体集計	校数	n=272
①行っている	124	45.6%
②行っていない	120	44.1%
③その他	27	9.9%
無回答	1	0.4%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)		連携型高等学校 (n=43)		併設型中学校 (n=73)		連携型中学校 (n=71)		形態不明
①行っている	8	53.3%	45	68.2%	25	58.1%	40	54.8%	4	5.6%	2
②行っていない	6	40.0%	12	18.2%	13	30.2%	25	34.2%	64	90.1%	0
③その他	1	6.7%	9	13.6%	4	9.3%	8	11.0%	3	4.2%	2
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0

設立種別集計	公立校(n=166)		私立校(n=103)	
習熟度別のクラス編成の実施校	48	28.9%	72	69.9%

問9 英語の授業において1クラスの生徒数は平均して何人ですか

回答対象：すべての学校

全体の回答を文部科学省の学校基本調査にある全国中学校の「収容人員別学級数」に準じてクラス別生徒数の幅を区切った。最も多いのが「13～20人」で27.9%、次いで「26～30人」21.4%となる。全国の公立全日制高等学校のクラス別平均人数が37.7人であるから、それよりかなり少ないことがわかる。なお、中学については平成20年度・学校基本調査にある全国中学校の「収容人員別学級数」の数値と比較してみた。全国的には「31～35人」と「36～40人」の部分にピークがあるが、一貫型中学校では「13～20人」と「26～30人」という2つのピークがあり、中学校においても一貫型でクラス別平均人数が少ないことがわかる。

形態別に見ると、併設型に比べ連携型が1クラスの生徒数はやや少ない。特に連携型高等学校は「13～20人」の学校が52.6%と半数以上を占めている。

全体と中等教育学校・高校集計	一貫高校全体		中等教育学校		併設型高等学校		連携型高校	
クラス平均人数	校数	n=154	校数	n=13	校数	n=27	校数	n=19
7人以下	4	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
8-12人	7	4.5%	0	0.0%	1	3.7%	2	10.5%
13-20人	43	27.9%	6	46.2%	2	7.4%	10	52.6%
21-25人	19	12.3%	1	7.7%	3	11.1%	2	10.5%
26-30人	33	21.4%	5	38.5%	5	18.5%	2	10.5%
31-35人	22	14.3%	0	0.0%	5	18.5%	2	10.5%
36-40人	20	13.0%	1	7.7%	7	25.9%	0	0.0%
41-45人	2	1.3%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%
46人	1	0.6%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%
47人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
48人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
49人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
50人以上	3	1.9%	0	0.0%	2	7.4%	0	0.0%

中学校		一貫中学校全体		形態別				設立種別			
クラス平均人数	学校基本調査の数値	併設型中学		連携型中学		国・公立中学		私立中学			
		校数	n=92	校数	n=39	校数	n=52	校数	n=71	校数	n=21
7人以下	11.0%	3	3.3%	0	0.0%	3	5.8%	3	4.2%	0	0.0%
8-12人	1.2%	4	4.3%	0	0.0%	4	7.7%	4	5.6%	0	0.0%
13-20人	2.0%	23	25.0%	13	33.3%	9	17.3%	18	25.4%	5	23.8%
21-25人	4.2%	12	13.0%	4	10.3%	8	15.4%	8	11.3%	4	19.0%
26-30人	12.9%	21	22.8%	7	17.9%	14	26.9%	17	23.9%	4	19.0%
31-35人	34.3%	15	16.3%	6	15.4%	9	17.3%	11	15.5%	4	19.0%
36-40人	32.3%	12	13.0%	8	20.5%	4	7.7%	9	12.7%	3	14.3%
41-45人	1.7%	1	1.1%	0	0.0%	1	1.9%	1	1.4%	0	0.0%
46人	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
47人	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
48人	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
49人	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
50人以上	0.0%	1	1.1%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%

問10 学年別の英語の年間授業時間数は何時間ですか。併設・連携中学校は中1～中3まで、併設・連携高校は高1～高3まで、中等教育学校は中1～高3までご記入ください（正規の授業のみ。課外活動、自由学習、補講などは含まず。授業1回を1時間とします）

回答対象：すべての学校

回答が年間授業時間数と週間授業時間数の2種類に分かれたので、別々に集計した。形態別にみた英語の授業時間数は、連携型が少なく、併設型が多いという傾向がうかがえる。中等教育学校はその中間となる。また中学と高校では当然ながら高校の授業時間数が多い。

週間授業時間数では中等教育学校、併設型中学校・高等学校とも「週6時間」がピークだが、連携型では中学校「週3時間」、高等学校「週4時間」がそれぞれピークとなる。

一方の年間授業時間数では、中等教育学校では前期課程で「年151～200時間」、後期課程で「年201～250時間」がピークとなり、併設型では中学校で「年101～150時間」、高等学校で「年201～250時間」がピークとなる。連携型では中学校・高等学校ともに「年101～150時間」がピークである。中等教育学校と併設型で授業時間数が多く、連携型でやや少ないという傾向がうかがえる。

#### 週間英語授業時間数

◆中等教育学校◆	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間以上
中1			1	1	2	1		1	
中2			1	1	3		1		
中3			1	1	2	1	1		
高1					4	1	1		
高2				1	2	1	1	1	
高3					1		3	1	

◆併設型◆	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間以上
中1			7	5	9	10	1	1	
中2			6	7	8	7	4	1	
中3			5	5	10	9	4	1	
高1					19	7	7	1	
高2			1	2	13	6	7	3	2
高3			1	1	13	5	6	5	3

◆連携型◆	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間以上
中1		9	3	1					
中2		7	6						
中3		5	8						
高1	1	1	3	3	1	2			
高2		2	3	1	2	2			1
高3		1	3	1		1	3	1	1

年間英語授業時間数

◆中等教育学校◆	1～100時間	101～150時間	151～200時間	201～250時間	251～300時間	301時間以上
中1		3	6	1		
中2		1	5	1		
中3		1	5	1		
高1		1	1	3		
高2				4		
高3				3		1

◆併設型◆	1～100時間	101～150時間	151～200時間	201～250時間	251～300時間	301時間以上
中1		19	10	6	1	1
中2		18	10	6	2	1
中3		18	8	7	1	1
高1		1	5	14		
高2			6	12	4	2
高3			4	9	4	6

◆連携型◆	1～100時間	101～150時間	151～200時間	201～250時間	251～300時間	301時間以上
中1		56	1			
中2		56				
中3		55	1			
高1	3	11	7	3		
高2	3	9	3	7		2
高3	4	6	5	4	1	4

問11 貴校において実施されている英語授業で、特色として該当するものに○をつけてください  
(複数回答可)

回答対象：すべての学校

全体では「①ネイティブスピーカーによる授業」が70.6%と最も多く、「③海外での語学体験研修(学習)の実施」が32.0%でそれにつぐ。なお、ここにあげた①から④までの特色ある英語授業は、高校段階よりも中学段階での実施率が高い。高校段階では大学受験を前提とした授業が主流になるためと思われる。設立種別で見ると、国公立と私立による違いが鮮明である。すなわち、「①ネイティブスピーカーによる授業」では国公立59.5%に対し私立は92.0%。「③海外での語学体験研修(学習)の実施」では国公立18.5%に対し、私立は56.0%の学校がそれぞれ実施している。「⑤その他」としては、中学・高校の教員、あるいはALTやJTEを交えてのチームティーチング(TT)をあげる学校が多かった。

全体集計	校数	n=272
①ネイティブスピーカーによる授業	192	70.6%
②コンピュータを使った授業やテスト	40	14.7%
③海外での語学体験研修(学習)の実施	87	32.0%
④日本語を使わない英語だけの授業	41	15.1%
⑤その他	43	15.8%
無回答	22	8.1%

形態別集計	中等教育 学校 (n=15)		併設型 高等学校 (n=66)		併設型 中学校 (n=73)		連携型 高等学校 (n=43)		連携型 中学校 (n=71)		形態 不明
①ネイティブスピーカーによる授業	11	73.3%	49	74.2%	60	82.2%	24	55.8%	45	63.4%	3
②コンピュータを使った授業やテスト	3	20.0%	15	22.7%	14	19.2%	2	4.7%	6	8.5%	0
③海外での語学体験研修(学習)の実施	9	60.0%	30	45.5%	33	45.2%	8	18.6%	6	8.5%	1
④日本語を使わない英語だけの授業	5	33.3%	14	21.2%	14	19.2%	1	2.3%	6	8.5%	1
⑤その他	0	0.0%	6	9.1%	9	12.3%	7	16.3%	21	29.6%	0
無回答	1	6.7%	6	9.1%	2	2.7%	9	20.9%	3	4.2%	1

設立種別集計	国・公立学校(n=168)		私立学校(n=100)	
①ネイティブスピーカーによる授業	100	59.5%	92	92.0%
②コンピュータを使った授業やテスト	21	12.5%	19	19.0%
③海外での語学体験研修(学習)の実施	31	18.5%	56	56.0%
④日本語を使わない英語だけの授業	21	12.5%	20	20.0%
⑤その他	37	22.0%	5	5.0%

問11-2 コンピュータを使った授業やテストなどの具体的なシステムあるいは教材名がわかりましたらご記入ください 回答対象：問11で「②コンピュータを使った授業やテスト」と回答した学校

複数の回答があったものとしては「CALL」6校、「CASEC」3校、「NET ACADEMY」2校となっている。ほかに独自のオリジナルシステムや教材を使用している学校が6校あった。

問12 英語科において外部の検定や資格試験（英検・TOEFL・TOEIC・GTECなど）を学習や評価に利用されていますか 回答対象：すべての学校

全体の78.3%と、多くの学校で利用していることがわかる。また、問11とは逆に、中学よりも高校の利用比率が高い。設立種別でみると私立校で88.3%、国・公立校で72.5%と私立校での利用がより高い。形態別では、併設型高等学校89.4%が最も高く、以下中等教育学校86.7%、併設型中学校80.8%、連携型高等学校74.4%、連携型中学校66.2%となり、連携型での利用率がやや低いことがわかる。

全体集計	校数	n=272
①利用している	213	78.3%
②利用していない	59	21.7%
無回答	0	0.0%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型 高等学校 (n=66)		併設型 中学校 (n=73)		連携型 高等学校 (n=43)		連携型 中学校 (n=71)		形態 不明
①利用している	13	86.7%	59	89.4%	59	80.8%	32	74.4%	47	66.2%	3
②利用していない	2	13.3%	7	10.6%	14	19.2%	11	25.6%	24	33.8%	1
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0

設立種別集計	国・公立学校 (n=168)		私立学校 (n=103)	
利用している	121	72.5%	91	88.3%

問12-2 外部の検定や資格試験を、どのような形で利用されていますか

回答対象：問12で「①利用している」と回答した学校

全体の91.1%に及ぶほとんどの学校は「①英語学習の動機付け」と答えている。「③英語の単位認定」にまで利用している学校は7.5%と少数である。また中学・高校間の違いについては、「①英語学習の動機付け」は中学のほうが高く、「②英語学力の評価測定」「③英語の単位認定」は高校で利用度が高まるという傾向がうかがえた。高校で外部の検定や資格試験が「動機付け」から「学力評価・認定」へと活用範囲が広まることがわかる。形態別でみると、併設型の中・高で3割以上が「②英語学力の評価測定」に利用しているという点と、連携型高校で3割以上の学校で「③英語の単位認定」に利用しているという点が目立つ。

全体集計	校数	n=213
①英語学習の動機付け	194	91.1%
②英語学力の評価測定	51	23.9%
③英語の単位認定	16	7.5%
④その他	4	1.9%
無回答	0	0.0%

形態別集計	中等教育学校 (n=13)		併設型高等学校 (n=59)		併設型中学校 (n=59)		連携型高等学校 (n=32)		連携型中学校 (n=47)		形態不明
①英語学習の動機付け	12	92.3%	52	88.1%	53	89.8%	28	87.5%	46	97.9%	3
②英語学力の評価測定	3	23.1%	21	35.6%	18	30.5%	5	15.6%	4	8.5%	0
③英語の単位認定	0	0.0%	4	6.8%	2	3.4%	10	31.3%	0	0.0%	0
④その他	1	7.7%	0	0.0%	2	3.4%	1	3.1%	0	0.0%	0
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0

問12-3 外部の検定や資格試験の、今後の導入計画はありますか

回答対象：問12で「②利用していない」と回答した学校

現状で利用していないと回答した学校の8割以上の学校が、今後も導入を予定していないことがわかる。

全体集計	校数	n=59
①今後とも導入の予定はない	51	86.4%
②導入する予定がある	7	11.9%
無回答	1	1.7%

形態別集計	中等教育学校 (n=2)		併設型高等学校 (n=7)		併設型中学校 (n=14)		連携型高等学校 (n=11)		連携型中学校 (n=24)		形態不明
①今後とも導入の予定はない	1	50.0%	7	100.0%	10	71.4%	10	90.9%	22	91.7%	1
②導入する予定がある	1	50.0%	0	0.0%	4	28.6%	1	9.1%	1	4.2%	0
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.2%	0

問12-4 今後、どのような外部の検定や資格試験を利用、あるいは導入を計画されていますか、具体的な名称をすべてご記入ください

回答対象：問12で「①利用している」、あるいは問12-3で「導入する予定がある」と回答した学校

英語科において利用している外部の検定や資格試験では、英検が全回答校182校中の93.4%にあたる170校でトップ。以下、ベネッセコーポレーションのGTECが41校、TOEICが15校、TOEIC BRIDGEが14校、TOEFLとCASECがそれぞれ3校と続く。

検定・資格試験	実施校数(n=182)		検定・資格試験	実施校数(n=182)	
英検	170	93.4%	CASEC	3	1.6%
GTEC	41	22.5%	TOEIC IP	2	1.1%
TOEIC	15	8.2%	国連英検	1	0.5%
TOEIC BRIDGE	14	7.7%	全商英検	1	0.5%
TOEFL	3	1.6%			

問13 6年間の英語教育を通じて具体的な目標は設定されていますか

回答対象：すべての学校

全体では、具体的な目標を設定していない学校が59.2%と半数以上を占めるが、形態別に見ると差がみられる。すなわち中等教育学校では80.0%、併設型高校で53.0%と半数以上の学校が目標を設定している。併設型中学校も目標を設定している学校が47.9%と半数近くなのに対し、連携型では高校で25.6%、中学で15.5%と目標を設定している学校は少数派である。

全体集計	校数	n=272
①設定している	107	39.3%
②設定していない	161	59.2%
無回答	4	1.5%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)		併設型中学校 (n=73)		連携型高等学校 (n=43)		連携型中学校 (n=71)		形態 不明
①設定している	12	80.0%	35	53.0%	35	47.9%	11	25.6%	11	15.5%	3
②設定していない	3	20.0%	30	45.5%	37	50.7%	32	74.4%	58	81.7%	1
無回答	0	0.0%	1	1.5%	1	1.4%	0	0.0%	2	2.8%	0

問13-2 具体的にはどのような目標を設定していますか（記入例：「英単語を2000語マスターする」「英検2級の取得」など）

回答対象：問13で「①設定している」と回答した学校

設定されている具体的な目標については、やはり英検の級位取得が圧倒的に多い。目標の級位としては、中学・高校を問わず2級・準2級とする学校が多い。英検以外では一定数の英単語のマスターを目標とするところも多い。入試に関連した目標では、東京6大学など一定レベルの大学合格、センター試験でのある程度以上の正答、などを目指すものがある。

問14 中学・高校間で英語の交流授業を実施されていますか

回答対象：併設型と連携型の中学校と高等学校

全体では、実施している学校としていない学校がほぼ半々に分かれる。形態別に見ると、併設型では実施していない学校が高校で72.7%、中学で56.2%とそれぞれ半数以上となる。一方、連携型では高校で76.7%、中学で66.2%が交流授業を実施していると回答しており、併設型と連携型で回答内容に違いが表れた。

全体集計	校数	n=253
①実施している	122	48.2%
②実施していない	118	46.6%
③その他	0	0.0%
無回答	13	5.1%

形態別集計	併設型高等学校 (n=66)		併設型中学校 (n=73)		連携型高等学校 (n=43)		連携型中学校 (n=71)	
①実施している	16	24.2%	26	35.6%	33	76.7%	47	66.2%
②実施していない	48	72.7%	41	56.2%	10	23.3%	19	26.8%
③その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	3.0%	6	8.2%	0	0.0%	5	7.0%

問14-2 中学・高校間で英語の交流授業を実施する頻度はおよそどのくらいですか

回答対象：問14で「①実施している」と回答した学校

交流授業の実施頻度については、毎週実施しているという学校は72校となり、実施校全体(123校)の58.5%にのぼる。そのうち週1回が48校と最も多く、次いで週2回が11校となる。

週間頻度	週1回	週2回	週3回	週4回	週5回	週6回	週7回
実施校数	48	11	6	3	3	0	1

月間頻度	月1回	月2回	月3回	月4回
実施校数	4	2	1	1

学期間頻度	1学期1回	1学期2回	1学期3回	1学期4回	1学期5回	1学期13回
実施校数	9	2	1	0	1	1

問15 英語の年間カリキュラムや授業方針の決定、教材の選定などにあたって、中学(前期)課程と高校(後期)課程どちらの教員が主導しますか

回答対象：中等教育学校、併設型と連携型の高等学校

全体では、「⑤中学(前期)と高校(後期)の教員が共同して決める」33.1%、「②特に相談等はせずに、それぞれが独立して決める」32.3%、「①中学(前期)と高校(後期)で相談するが、実際にはそれぞれが独立して決める」25.0%となるが、形態別にみると大きな違いがある。すなわち、中等教育学校と併設型高校では「⑤中学(前期)と高校(後期)の教員が共同して決める」割合が高く、連携型高校では「②特に相談等はせずに、それぞれが独立して決める」割合が67.4%と最多になる。これも中・高間の密接度の違いによるものと推測される。

全体集計	校数	n=124
①中学（前期）と高校（後期）で相談するが、実際にはそれぞれが独立して決める	31	25.0%
②特に相談等はせずに、それぞれが独立して決める	40	32.3%
③高校（後期）の教員が主導して決める	4	3.2%
④中学（前期）の教員が主導して決める	1	0.8%
⑤中学（前期）と高校（後期）の教員が共同して決める	41	33.1%
⑥どちらともいえない	5	4.0%
無回答	2	1.6%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型高等学校 (n=66)		連携型高等学校 (n=43)	
	①中学（前期）と高校（後期）で相談するが、実際にはそれぞれが独立して決める	3	20.0%	20	30.3%	8
②特に相談等はせずに、それぞれが独立して決める	1	6.7%	10	15.2%	29	67.4%
③高校（後期）の教員が主導して決める	0	0.0%	2	3.0%	2	4.7%
④中学（前期）の教員が主導して決める	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
⑤中学（前期）と高校（後期）の教員が共同して決める	10	66.7%	29	43.9%	2	4.7%
⑥どちらともいえない	1	6.7%	2	3.0%	2	4.7%
無回答	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%

問16 「高校課程からの入学者」と「中学課程からの進学者」の間で英語の学力差を感じますか

回答対象：併設型と連携型の高等学校

全体では、「③どちらともいえない」が38.5%で最多だが、「①学力差を感じる」が「②感じられない」を20ポイント近く上回ることから、学力差がないと感じるのは少数派である。形態別にみると、「①学力差を感じる」は併設型高校49.1%、連携型高校21.6%と、併設型高校で高く、逆に「②感じられない」は併設型高校7.0%、連携型高校32.4%と連携型高校で高くなる。併設型高校のほうが外部入学者との差を感じるということは、次の問16-2の回答結果（併設型高等学校では「外部入学者より内部進学者のほうが学力が高いと考える」が多数派）も併せて考えると、一貫校としての教育成果が連携型より併設型のほうが高いと考えることも可能である。

全体集計	校数	n=109
①学力差を感じる	36	33.0%
②学力差は感じられない	16	14.7%
③どちらともいえない	42	38.5%
無回答	15	13.8%

形態別集計	併設型高等学校 (n=57)		連携型高等学校 (n=37)	
	①学力差を感じる	28	49.1%	8
②学力差は感じられない	4	7.0%	12	32.4%
③どちらともいえない	25	43.9%	17	45.9%

問16-2 「高校課程からの入学者」と「中学課程からの進学者」で学力が高いのはどちらですか

回答対象：問16で「①学力差を感じる」と回答した学校

全体的には内部からの進学者が、外部からの進学者よりも学力が高いと認識する学校が80.5%と多数を占める。形態別にみると、併設型高校では回答の89.3%が、内部進学者の学力が高いと感じているが、連携型高校では双方が拮抗している。この結果も問16の結果と相応しているといえよう。

全体集計	校数	n=36
①外部からの高校入学者	6	16.7%
②内部からの高校進学者	29	80.5%
無回答	1	2.8%

形態別集計	併設型高等学校 (n=28)		連携型高等学校 (n=8)	
	①外部からの高校入学者	3	10.7%	3
②内部からの高校進学者	25	89.3%	4	50.0%
無回答	0	0.0%	1	12.5%

問16-3 「高校課程からの入学者」と「中学課程からの進学者」の間の英語の学力差は、卒業までにどうなりますか

回答対象：問16-1で「①学力差を感じる」と回答した学校

高校進級・入学時の学力差については、卒業までに縮まるとも広がるとも一概には言えないという声が83.3%で圧倒的に多かった。

全体集計	校数	n=36
①学力差は縮まる	3	8.3%
②学力差がさらに拡大する	2	5.6%
③人によって異なり、一概に言えない	30	83.3%
無回答	1	2.8%

形態別集計	併設型高等学校 (n=28)		連携型高等学校 (n=8)	
	①学力差は縮まる	3	10.7%	0
②学力差がさらに拡大する	2	7.1%	0	0.0%
③人によって異なり、一概に言えない	23	82.1%	7	87.5%
無回答	0	0.0%	1	14.3%

問16-4 「高校課程からの入学者」と「中学課程からの進学者」の間の英語の学力差を是正するためにどのような手段を講じていますか（複数回答可）

回答対象：問16-1で「①学力差を感じる」と回答した学校

高校進級・入学時の学力差の是正手段については、「②補習授業の実施」66.7%、「①習熟度別のクラス編成」58.3%となっているが、双方を実施している学校も16校（44.4%）に及ぶ。形態別の大きな差は特にみられなかった。

全体集計	校数	n=36
①習熟度別のクラス編成	21	58.3%
②補習授業の実施	24	66.7%
③特に行っていない	4	11.1%
④その他	3	8.3%
無回答	1	2.8%

形態別集計	併設型高等学校 (n=28)		連携型高等学校 (n=8)	
	①習熟度別のクラス編成	16	57.1%	5
②補習授業の実施	19	67.9%	5	62.5%
③特に行っていない	2	7.1%	2	25.0%
④その他	3	10.7%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	14.3%

問17 中高一貫教育というシステムは、英語科において学力向上の面からメリットを感じられますか

回答対象：すべての学校

全体では「①大いに感じている」と「②多少は感じている」で72.5%を占め、中高一貫教育を積極的に評価する学校が多い。その一方で「③メリット・デメリット半々」と「④デメリットが多い」というマイナス評価も22.7%ある。形態別にみると中等教育学校ではすべての学校がメリットを感じており、次いで併設型でも「③メリット・デメリット半々」と「④デメリットが多い」のマイナス評価は20%に満たない。それに比べて連携型では、「①大いにメリットを感じる」学校の割合は高校7.0%、中学5.6%にとどまり、中等教育学校66.7%、併設型高校43.9%、併設型中学50.7%に比べ大幅に少なくなっている。連携型においては中高一貫教育のメリットを生かし切れていない学校が多いことがわかる。

全体集計	校数	n=272
①大いにメリットを感じている	85	31.3%
②多少はメリットを感じている	112	41.2%
③メリットとデメリットが半々	48	17.6%
④デメリットのほうが多いと感じている	14	5.1%
無回答	13	4.8%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型 高等学校 (n=66)		併設型 中学校 (n=73)		連携型 高等学校 (n=43)		連携型 中学校 (n=71)		形態 不明
	①大いにメリットを感じている	10	66.7%	29	43.9%	37	50.7%	3	7.0%	4	
②多少はメリットを感じている	5	33.3%	26	39.4%	23	31.5%	20	46.5%	36	50.7%	2
③メリットとデメリットが半々	0	0.0%	10	15.2%	9	12.3%	13	30.2%	16	22.5%	0
④デメリットのほうが多いと感じている	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	5	11.6%	8	11.3%	0
無回答	0	0.0%	1	1.5%	3	4.1%	2	4.7%	7	9.9%	0

問18 中高一貫教育のメリットとしては、どのようなものがありますか（複数回答可）

回答対象：すべての学校

全体では、「① 6年間一貫して授業ができるので、長期的観点に立った指導ができる」68.0%が最も多く、次いで「③中学課程と高校課程の教員が交流することで、生徒を一貫して指導・育成できる」が58.1%と、それぞれ半数以上の学校が回答している。「④その他」としては「教員のCommitment」が向上する（私立・中等学校）「中学生に対し、大学入試まで見通した英語の指導ができる（私立・併設・中学）」「TT等を実施することで、少人数指導が可能になる（不明・連携・中学）」「生徒募集上、少子化の中で助かる（私立・併設・高校）」など、率直な意見を含め積極的評価が聞かれたが、「メリットを感じない（公立・連携・中学）」のように、質問趣旨からは外れるがあえてデメリットを記した学校もあった。

形態別にみると、中等教育学校と併設型では「① 6年間一貫して授業ができるので、長期的観点に立った指導ができる」を選択した学校がいずれも9割以上を占めるのに対し、連携型では「③中学課程と高校課程の教員が交流することで、生徒を一貫して指導・育成できる」を上げる学校が高校で69.8%、中学で66.2%と最も多くなる。これは中学・高校間の密接度の違いによるものであろうと推測できる。

全体集計	校数	n=272
① 6年間一貫して授業ができるので、長期的観点に立った指導ができる	185	68.0%
② 入学競争倍率が高いので選抜された優秀な生徒が集まる	17	6.3%
③ 中学課程と高校課程の教員が交流することで、生徒を一貫して指導・育成できる	158	58.1%
④ その他	27	9.9%
無回答	6	2.2%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型 高等学校 (n=66)		併設型 中学校 (n=73)		連携型 高等学校 (n=43)		連携型 中学校 (n=71)		形態 不明
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
① 6年間一貫して授業ができるので、長期的観点に立った指導ができる	15	100.0%	62	93.9%	68	93.2%	14	32.6%	22	31.0%	4
② 入学競争倍率が高いので選抜された優秀な生徒が集まる	0	0.0%	9	13.6%	7	9.6%	0	0.0%	1	1.4%	0
③ 中学課程と高校課程の教員が交流することで、生徒を一貫して指導・育成できる	9	60.0%	34	51.5%	36	49.3%	30	69.8%	47	66.2%	2
④ その他	1	6.7%	5	7.6%	2	2.7%	8	18.6%	11	15.5%	0
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	2.3%	4	5.6%	0

問19 中高一貫教育のデメリットとしては、どのようなものがありますか（複数回答可）

回答対象：すべての学校

全体的には「①高校入試がないために、学習への緊張感が薄れ学力が低下する」が最も多い。形態別にみると、①は中等教育学校66.7%と併設型高等学校60.6%・併設型中学校60.3%、連携型高等学校72.1%・連携型中学校67.6%で、いずれの形態でも最も指摘が多かった。2番目は、中等教育学校と併設型では「②6年の間に学力差が開き過ぎる」で、連携型では「③優秀な生徒が他の高校に進学する」となり、連携型と、中等教育学校・併設型との回答が分かれた。

「⑤その他」では、連携型では「連携する学校が多いと（一貫教育の）効果がない（公立・連携・高校）」「中学側のメリットがない、手間が増えるだけ（公立・連携・高校）」「入試や行事で一貫教育に取り組むだけで、教育プログラムとして具体的な取り組みがない（公立・連携・中学）」、併設型では「入学者確保のため低学力層も取らざるを得ないので学力差が大きく解消できない（私立・併設・高校）」、中等教育学校では「適性検査による入学のため、学力差が入学当初から大きい（公立・中等教育学校）」「不振者・落伍者のケアが大変（私立・中等教育学校）」などが目立った。連携校では、学校が分散していることからの非効率性、中等教育学校と併設型では中学に入学する生徒の学力差を指摘する傾向がうかがえる。

全体集計	校数	n=272
①高校入試がないために、学習への緊張感が薄れ学力が低下する	176	64.7%
②6年の間に学力差が開き過ぎる	76	27.9%
③優秀な生徒が他の高校に進学する	61	22.4%
④途中入学者との学力差が生じる	18	6.6%
⑤その他	25	9.2%
無回答	19	7.0%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型 高等学校 (n=66)		併設型 中学校 (n=73)		連携型 高等学校 (n=43)		連携型 中学校 (n=71)		形態 不明
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	
①高校入試がないために、学習への緊張感が薄れ学力が低下する	10	66.7%	40	60.6%	44	60.3%	31	72.1%	48	67.6%	3
②6年の間に学力差が開き過ぎる	8	53.3%	34	51.5%	29	39.7%	3	7.0%	1	1.4%	1
③優秀な生徒が他の高校に進学する	1	6.7%	10	15.2%	6	8.2%	23	53.5%	21	29.6%	0
④途中入学者との学力差が生じる	0	0.0%	8	12.1%	8	11.0%	1	2.3%	1	1.4%	0
⑤その他	3	20.0%	4	6.1%	4	5.5%	4	9.3%	10	14.1%	0
無回答	0	0.0%	4	6.1%	6	8.2%	1	2.3%	8	11.3%	0

問19-2 学力差の拡大を防ぐために、どのような手段を講じていますか（複数回答可）

回答対象：問19で「②6年の間に学力差が開き過ぎる」と回答した学校

全体では「②補習授業の実施」75.0%、「①習熟度別のクラス編成」59.2%の順で、問16-4のパターンと同様の結果となった。

全体集計	校数	n=76
①習熟度別のクラス編成	45	59.2%
②補習授業の実施	57	75.0%
③特に行っていない	0	0.0%
④その他	6	7.9%
無回答	4	5.3%

形態別集計	中等教育学校 (n=8)		併設型 高等学校 (n=34)		併設型 中学校 (n=29)		連携型 高等学校 (n=3)		連携型 中学校 (n=1)		形態 不明
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
①習熟度別のクラス編成	3	37.5%	22	64.7%	17	58.6%	2	66.7%	0	0.0%	1
②補習授業の実施	6	75.0%	25	73.5%	24	82.8%	0	0.0%	1	100.0%	1
③特に行っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
④その他	1	12.5%	4	11.8%	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0
無回答	2	25.0%	1	2.9%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0

問20 貴校ではいわゆる「教育課程の特例の活用」を利用していますか

回答対象：すべての学校

全体では、教育課程の特例を利用していない学校が 62.9%を占めるが、形態別にみると、中等教育学校 73.3%、併設型中学校 56.2%と半数以上の学校で利用しており、併設型高校でも 47.0%と半数に迫る学校が利用している。その一方で、連携型で教育課程の特例を利用している学校は高校 4.7%、中学 9.9%にとどまっている。ここでも、教育課程の特例を積極的に活用している中等教育学校と併設型、活用が十分でない連携型とで回答パターンが大きく分かれたことになる。

全体集計	校数	n=272
①利用している	92	33.8%
②利用していない	171	62.9%
無回答	9	3.3%

形態別集計	中等教育学校 (n=15)		併設型 高等学校 (n=66)		併設型 中学校 (n=73)		連携型 高等学校 (n=43)		連携型 中学校 (n=71)		種別 無回答
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
①利用している	11	73.3%	31	47.0%	41	56.2%	2	4.7%	7	9.9%	0
②利用していない	3	20.0%	32	48.5%	30	41.1%	41	95.3%	62	87.3%	3
無回答	1	6.7%	3	4.5%	2	2.7%	0	0.0%	2	2.8%	1

問20-2 利用されている「教育課程の特例の活用」は以下のどれに該当するかお答えください

(複数回答可)

回答対象：問20で「①利用している」と回答した学校

「①高校（後期）の一部を中学（前期）で実施」が 82.6%で最も多い。「④その他」の多くも実質的には①と同内容なので、「教育課程の特例の活用」を利用しているほとんどの学校は「①高校（後期）の一部を中学（前期）で実施」しているということになる。

全体集計	校数	n=92
①高校（後期）の一部を中学（前期）で実施	76	82.6%
②中学（前期）と高校（後期）の一部を相互に入れ替えて実施	3	3.3%
③中学（前期）の一部を高校（後期）で実施	3	3.3%
④その他	9	9.8%
無回答	3	3.3%

形態別集計	中等教育学校 (n=11)		併設型 高等学校 (n=31)		併設型 中学校 (n=41)		連携型 高等学校 (n=2)		連携型 中学校 (n=7)		種別 無回答
	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	校数	割合	
①高校（後期）の一部を 中学（前期）で実施	9	81.8%	27	87.1%	35	85.4%	2	100.0%	3	42.9%	0
②中学（前期）と高校（後 期）の一部を相互に入れ 替えて実施	1	9.1%	0	0.0%	2	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	0
③中学（前期）の一部を 高校（後期）で実施	0	0.0%	1	3.2%	2	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	0
④その他	0	0.0%	2	6.5%	4	9.8%	0	0.0%	3	42.9%	0
無回答	1	0.0%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%	0